

年 度 評 価 シ ー ト

課名 男女共同参画課

施設の名称 静岡市女性会館	指定管理者名 特定非営利活動法人 男女共同参画フォーラムしずおか
<p>1 履行状況</p> <p>業務仕様書及び業務計画書に従って適切に履行されている。</p> <p>(1) 事業実施状況</p> <p>令和元年度は、記録的な豪雨による講座の延期、大型台風による臨時休館、新型コロナウイルス感染拡大防止対策による主催事業の中止（次年度への延期）など、地震や風水害に留まらない災害に対する危機管理を臨機応変に行いながら、各事業は良好に実施された。</p> <p>主な事業の詳細は以下のとおりである。</p> <p>①講座企画運営事業</p> <p>事業計画書に沿って全22講座のうち、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、次年度へ延期した2講座及び1講座の一部を除き実施し、延べ2,053人の参加があった。</p> <p>主要講座である第16期アイセル女性カレッジは、組織の中で働いている女性を対象とし、働き続ける女性が自身のキャリアや生き方のステップアップができる内容となっており、満足度は99.3%と非常に高くなっている。</p> <p>また、防災分野における女性の人材育成講座「私の声を地域に活かす」は、昨年度実施した駿河区に続き、葵区地域総務課と協働して葵区にて実施し、受講生同士が情報交換のためのLINEグループを自発的に立ち上げるなど、地域の人材育成に繋がっている。このほか、性別に関わらず関心の高い災害時のトイレ問題や地域への出前講座を実施するなど、防災をテーマとした講座を精力的に実施している。</p> <p>さらに、女性に対する暴力防止のメッセージを込めた「パープルリボンダンスフェス」への高校や大学のダンス部の参加、YouTubeでの情報発信をテーマとした性的少数者講座への高校生らの参加など、従来利用の少なかった若年層に対する効果的な情報発信がなされており、新規利用者の増加や講座内容の工夫等、次年度への展開が期待される。</p> <p>②相談事業</p> <p>「女性のための総合相談」は、電話・面接相談を245日、法律相談を24日開設し、年間で1,834件の相談に対応した。相談者は30～50代で全体の約7割を占め、相談内容を見ると「家族・親族」「離婚」「DV・暴力」という順で上位3位を占めている。特に、「DV・暴力」に関する電話相談は昨年度の2倍に増加しており、DV相談の専門家によるスーパービジョンやケース検討を重ねて面接相談に繋ぐほか、必要に応じて児童相談所や社会福祉協議会等と連携し対応している。</p> <p>また、セクシュアリティや性別違和などの悩みに対応するため、新たに「にじいろ電話相談」を月1回開設し、15件の相談に対応した。当事者からの相談のほか、家族や支援者からの相談にも対応している。</p>	

③情報収集・発信事業

図書コーナーでは、2階の団体活動室に新聞コーナーを移動して新聞閲覧者の環境改善に向けたレイアウト変更のほか、図書の貸出冊数の上限を5冊から10冊に引き上げるなど、利用者の利便性向上のための改善を図っている。

また、図書貸出システムを更新したことにより、ホームページ上でこれまで以上に多くの情報を提供できるようになり、静岡市女性会館ホームページのリニューアルとあいまって利便性が向上している。

④Jo-Shizu人材バンク活用事業

アイセル女性カレッジ修了生13期から15期までをつなぐ会を初めて開催し、参加者が各事業への協力や紹介、情報発信を積極的に行い、人材バンク登録者同士による人的ネットワークが機能している。

⑤団体活動支援事業

団体の要望による活動紹介展示を2回行ったほか、当事者グループの自立支援を行い、団体の立ち上げ及び活動の継続に繋がっている。

(2) 施設管理・運営

複合型施設となる静岡市葵生涯学習センターと連絡調整を行いながら、各業務とも事業計画に従って適切に行われている。施設・備品の修繕について、第三者委託の負担金が昨年より低くなったことから子ども室のエアコン取替工事が可能となるなど工夫をしている。

施設利用者数は85,132人、貸室の稼働率は51.1%であった。昨年度の98,536人と比較して13,404人減少しているが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、3月は貸室利用を中止する団体が増加したこと、利用者の高齢化による団体利用の減少などが影響していると考えられる。

(3) 組織運営

多様化するニーズに対応するため職員の知識やスキルを高める内部研修や、国立女性教育会館等への外部研修を積極的に取り入れている。

また、休館日が少ないことや開館時間が長いこと、不規則なローテーション勤務となっていることから、職員の働き方や健康面に配慮した運営体制が求められている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

静岡市女性会館では、利用者からの意見・要望を吸い上げるため、定期的に利用者トークサロンを実施しており、複合型施設である静岡市葵生涯学習センターと情報共有しながら、意見・要望を反映した施設管理を行っている。令和元年度は自助グループや防災講座受講生に焦点を当て、利用者トークサロンを通じて意見・要望を聴取し、適切に対応した。

<具体的な意見・要望とその対応状況>

意見等：自助グループ同士の意見交換する機会が欲しい。

対 応：自助グループ運営者を対象とした別のトークサロンを年度内に開催した。

意見等：防災分野の女性講座について、今後も実施して欲しい。

対 応：頂いた意見を次年度の企画・運営の参考とする。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

講座受講者に対して実施した講座満足度アンケートでは、96.6%が「満足」か「まあ満足」と回答しており、協定書で定めた目標値（94%以上）を上回る結果となった。

(2) 利用者アンケート

目 的：講座等の認知経路や紙媒体の閲覧状況について調査

対象者：講座等への参加者 延べ1,110人

講座参加者の年代は10代、40代の順に多く、合わせて全体の4割を占めている。講座等は、家族・友人・知人を通じて参加する方が多いほか、学校出前講座や学校経由の参加が多い。

また、講座参加者に紙媒体の閲覧状況を調査したところ、新聞を「毎日読む」、「全く読まない」はそれぞれ全体の3割を占めており、「毎日読む」は、男性が女性の2倍以上と顕著な違いが表れている。また、新聞と広報しずおかに共通する点として、年代が高くなるほど欠かさず「読む」人が多くなっており、年代ごとの傾向が把握できている。

(3) 自主防災会に関するアンケート

目 的：自主防災組織への女性の参画状況を把握

対象者：各区連合自主防災組織及び単位自主防災組織 813団体

本調査において、自主防災組織の会長は70代男性が中心であり、女性は3%台であること、防災部会に女性がいない組織は48%であること、防災に関する役員等の女性比率が3割以上は17%であることが把握できた。連合及び単位自主防災組織の課題は、「役員等のリーダーの担い手が不足している」が共通しており、単位自主防災組織については、「住民参加が進まない・参加するのがいつも同じ人」が続いており、防災委員に女性を任命するなど、男女共同参画の視点に立った取組が必要である。

また、静岡市女性会館の認知度について、「静岡市女性会館を知っており、且つ大規模災害時に女性支援の拠点施設になることを知っている」人、「大規模災害時に女性支援の拠点施設になることは知らなかったが、静岡市女性会館を知っている」人は、連合自主防災組織及び単位自主防災組織813団体中、554団体（68.1%）であることが把握できている。

4 指定管理者の経理状況の評価

指定管理業務についての収支状況については、概ね予算のとおりにより執行されており良好である。なお、支出科目ごとに見ると光熱水費や講座企画運営において支出超過が見られるが、相談事業の減少などにより、全体としては予算の範囲内に収まっている。

5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

協定書に定めた目標値において、「新規利用者数400人以上」、「講座受講生の満足度94%以上」は上回る結果となっている。「図書コーナーの図書貸出冊数12,000冊以上」は目標値を下回る結果となったものの、図書貸出システムの更新により開室日数が昨年より6日少ないことを考慮すれば例年通りの実績と言える。図書コーナーは、貸出冊数の上限引き上げやホームページをリニューアルしたことから次年度は貸出冊数の増加が期待できる。

施設の管理運営全般に関しては、事業計画に従い良好に実施されている。特に、新型コロナウイルスに対して、市の方針に従い感染症対策を徹底し、利用団体への周知や図書コーナーの利用制限など、臨機応変に対応できている。

また、利用者トークサロン等により、随時利用者からの声を反映させる等、指定管理者制度のメリットを十分に活かし、満足度の高い事業展開及び施設管理を行っている。